



## JSPS Strasbourg Office Quarterly / 2010-11 No.2

### 日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告

(2010年7月～9月)



初夏のストラスブール大学附属植物園

7月初旬から中旬にかけてのストラスブールは非常に暑く、日仏大学会館の最上階にある当センターにはエアコンがないため、先が思いやられました。一転、8月になると過ごしやすくなり、雨も多い月となりました。また、7月、8月のバカンス時期のストラスブールでは、市や様々な団体によって企画された夏のイベントが催され、市民や多くの観光客を楽しませてくれました。



#### 日仏大学会館との学術セミナーの開催

ストラスブール日仏大学会館と共催で、日仏の研究者を招待して、様々なテーマで学術セミナーを開催しています。2010年7月から9月までの間に、以下のセミナーを日仏大学会館にて実施しました。

9月14日 / 第89回学術セミナー

講演者：三橋富子 教授（日本大学）

講演タイトル：「新鮮な魚と調理：その生化学」

“Preparing fish : a matter of cuisine and biochemistry?”

日本人の魚食文化の特徴として新鮮な魚を生で食することから、魚肉の鮮度と鮮度低下に伴うテクスチャー変化については高い関心が持たれてきた。魚肉の死後硬直および解硬の程度は、体長の上半身2分の1を平面上においたときの下半身の垂れ下がり度を測定する硬直指数によって表している。しかし、死後の肉質の物性変化は、この硬直指数で示される死後硬直および解硬とは関係なく、肉質の破断強度の低下は解硬に先立って速やかに起こっている。筋肉内の巨大な筋原線維タンパク質であるコネクチンおよびネブリンの死後の変化と魚肉物性の関係について検討を加えた結果、コネクチンおよびネブリンの分解と肉質の硬さの変化との相関係数は試料6魚種全体において、各々0.73および0.76と有意な相関を示すことが明らかとなり、魚肉のテクスチャー変化に関与していることを示された。



セミナー後、講演者の三橋富子教授（右から9人目）と参加者。

#### フランスの大学、グランゼコール、研究機関への訪問：JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施



当センターは、フランス各地の大学・研究機関を訪問し、大学幹部や研究者と直接に対話を行い、また、その機会に各地のJSPS同窓会との交流を深めています。

9月17日 / Université de Lille 2（リール第2大学）訪問

リール第2大学は、フランス北部ノール地方の中心都市で、北フランス最大の工業都市リール市やリール市に隣接する町にキャンパスが点在しています。リール第2大学は、1559年、リール南方のスカルプ川沿いにあるDouai市に、スペイン国王フィリップ2世によって創設された法学部と医学部に起源を持ちます。その後、1896年に文学部及び理学部が加わりリール大学が創設され、1971年には法学部と健康・医学系学部が

ら成るリール第2大学が誕生しました。

リール第2大学は、医学、薬学・生物学、歯学、法学・政治社会学、スポーツ科学部および大学院、研究所から構成され、学生数約26,600名、教員数約1,050名、事務・技術スタッフ約820名の規模となっています。

今回の訪問では、学長 Prof. Christian SERGHERAERT、研究担当副学長 Prof. Régis MATRAN より同大学の概要説明を受けるとともに、日本学術振興会の事業を紹介しました。また、同大学医学部にて、研究者、ポスドク、博士課程の学生を集めての学術振興会プレゼンテーション、Marie-Claire LETT 教授 (JSPS フランス同窓会会長) による JSPS フランス同窓会活動のプレゼンテーション、および JSPS-OB7 名による日本での研究生生活や経験談が語られました。

さらに、同医学部の予防医学・治療研究所 (IMPRT) を訪問し、分子細胞・映像部門、遺伝研究部門を訪問し、各部門の主任研究者から研究の概要説明を受けるとともに、最新の研究施設を見学しました。



リール第2大学学長表敬訪問。学長 Prof. Christian SERGHERAERT (右から2人目)、研究担当副学長 Prof. Régis MATRAN (右端)。



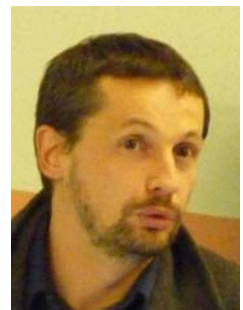
木戸場副センター長による JSPS 事業のプレゼンテーション。



Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



AIST での研究生生活を語る Prof. Franck DUMEIGNIL (リール第1大学教授、JSPS-OB)。



LIMS での研究生生活を語る Dr. Nicolas TIERCELIN (CNRS 研究員、JSPS-OB)。



大阪大学での研究生生活を語る Dr. Michel SLIWA (CNRS 研究員、JSPS-OB)。



理研での研究生生活を語る Dr. Eric VISCOGLIOSI (パストゥール研主任研究員、JSPS-OB)。



分子研での研究生生活を語る Prof. Serge BIELAWSKI (リール第1大学教授、JSPS-OB)。



サマープログラムでの研究生生活を語る Ms. Clothilde SABRE (JSPS-OB)。



欧米短期での研究生生活を語る Ms. Pascal MOSBAH (JSPS-OB)。



医学部訪問。Dr. Maud COLLYN (IMPRT 事務長、左から4人目)らと。左端は濱田国際協力員。



生体映像研究室訪問。Micro-IRM 装置。

### 9月21日 Institut Charles Sadron (ICS) (CNRS シャルル・サドロン研究所) 訪問

CNRS シャルル・サドロン研究所は、ストラスブール市郊外の Cronenbourg にあります。同研究所は、1947年にストラスブール大学 Charles Sadron 教授がイニシアティブをとり、CNRS によって創設された高分子・物理学研究所 (CEPM: Centre d'Etude de Physique Macromoléculaire) に起源をもちます。1954年には、CEPM から高分子学が独立し、新しい研究施設が設立されました。そして、1985年に高ポリマー応用研究所 (EAHP: Ecole d'Application des Hauts Polymères) と統合され、現在のシャルル・サドロン研究所となりました。同研究所の研究分野には、ポリマーに関する基礎研究から産業への応用研究および、化学、材料物理学の研究者が在籍しています。

現在、3部門 (高分子電解質、ポリマー界面、自己組織化システム) から構成され、研究者 54名、ポスドク 96名、客員研究者・博士課程学生約 70名、事務・技術スタッフ 44名の規模となっています。

今回の訪問では、Dr. Jean-François Legrand (ICS 所長) より、同研究所の概要説明を受けるとともに、日本学術振興会の事業を紹介しました。また、Dr. Marie Pierre Krafft (CNRS 主任研究員) の司会により、研究者、ポスドク、博士課程の学生を集めての学術振興会プレゼンテーション、Marie-Claire LETT 教授 (JSPS フランス同窓会会長) による JSPS フランス同窓会活動のプレゼンテーション、および JSPS-OB3 名による日本での研究生生活や経験談が語られました。

さらに、同研究所のポリマー界面部門を訪問し、2,3の研究室長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。



質問に答える木戸場副センター長



Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



九州大学での研究生生活を語る Dr. Gilles ULRICH (CNRS 主任研究員、JSPS-OB)。



静岡県立大学での研究生生活を語る Dr. Jean-Michel GUENET (CNRS 主任研究員、JSPS-OB)。



電子顕微鏡の説明を行う Dr. Annette THIRRY (中央) らと。



フッ素化両親媒性分子システム研究グループの Dr. Marie Pierre KRAFFT CNRS 主任研究員 (左端)。



ICS 研究棟。



日本の大学、研究機関等の国際化事業への協力、仏側対応機関、ストラスブール日仏学会館、在ストラスブール日本国領事館等との連携・協力

当センターでは、フランスにおけるこれまでの活動によって得られた情報、ネットワークの資産を活かして、日本との学術交流に興味のあるフランスの大学、研究機関からの照会に応じています。また、学生レベルでの日仏交流を促進するストラスブール日仏学会館が主催する事業にも参加・協力を行うとともに、在ストラスブール日本国領事館との緊密な協力関係の構築に努めています。

7月1日-2日 / 大阪大学・ストラスブール大学ジョイントワークショップ「Chemistry at the Frontiers of Biology and Physics」(JSPS グローバル COE Bio-Enviromental Chemistry 協賛) に中谷センター長が出席しました。



大阪大学 福住俊一教授による講演。



司会を行うストラスブール大学 Dr. Pierre BRAUNSTEIN (主催者)

7月7日／ 日仏学会館にて、JSPS-CNRS 二国間交流共同研究プロジェクト「ショウジョウバエをモデルとした赤痢菌の研究」の説明会が開催され、日本側より東京大学医科学研究所の笹川千尋教授（同プロジェクト日本側代表者）、三室仁美 同研究所講師、芦田浩 同研究所助教、小川道永 同研究所助教、フランス側より Prof. Jean-Marc REICHHART（ストラスブール大学教授・同プロジェクトフランス側代表者）が出席されました。その後、各出席者と中谷センター長、Marie-Claire LETT 教授（日仏学会館長、仏 JSPS 同窓会会長）と日仏研究者交流について意見交換を行いました。



左から笹川教授、芦田助教、三室講師、小川助教、中谷センター長、Marie-Claire LETT 教授（日仏学会館長）。

7月12日／ パリの CNRS 本部を訪問し、Dr. Minh-Hà PHAM-DELEGUE（CNRS ヨーロッパ・国際部長）、Dr. Pascal BREUILLES（化学研究所）、Monique BENOIT 氏（CNRS 国際部 Asia-Pacific 担当官）とともに、本年 11 月開催予定のフランス文化庁、CNRS、JSPS 共同ワークショップ（Science for conservation of cultural heritage：文化遺産保護の科学）の打合せを行いました。また、打合せ終了後、引き続き 2010 年度外国人特別研究員（欧米短期）の追加選考会を開催しました。



打合せの様子。右から Dr. Minh-Hà PHAM-DELEGUE、Monique BENOIT 氏、Dr. Pascal BREUILLES。

7月13日／ ルーブル美術館研究所（C2RMF）を訪問し、Dr. Michel MENU 研究部長と本年 11 月開催予定のフランス文化庁、CNRS、JSPS 共同ワークショップ“Science for conservation of cultural heritage：文化遺産保護の科学”の打合せを行いました。

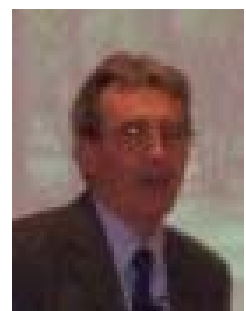


打合せの様子。Dr. Michel MENU 研究部長（左端）。

7月27日／ ストラスブール大学化学部にて、Prof. Jean-Marie LEHN（ノーベル化学賞受賞者）、Prof. Jean -Pierre SAUVAGE（フランス科学アカデミー会員）と中谷センター長が、2011 年度 JSPS フォーラム（Chemistry of Functional Organic Chemicals：創造機能化学）についての打合せを行いました。



Prof. Jean-Marie LEHN



Prof. Jean -Pierre SAUVAGE

8月6日／ JST パリ事務所の荒川敦史所長が来所され、当センターの事業説明を行うとともに、日仏間の研究助成について意見交換を行いました。



JST パリ荒川敦史所長（中央）。

8月9日／ ストラスブール大学化学部にて、Prof. Jean-Marc PLANEIX (UDS 化学学部長) と中谷センター長、木戸場副センター長が、2011 年度 JSPS フォーラム (Chemistry of Functional Organic Chemicals : 創造機能化学) についての打合せを行いました。



UDS 化学学部長 Prof. Jean-Marc PLANEIX (左)

8月31日／ ストラスブール市郊外にある International Space University (ISU) のマスタープログラム卒業式 (2009/2010)、および入学式 (2010/2011) に中谷センター長、濱田国際協力員が出席しました。式終了後、Prof. Michael SIMPSON (ISU 学長)、Prof. Walter PEETERS (ISU 学部長)、Prof. Nikolai TOLYARENKO (マスタープログラム主任)、Prof. Nikolai TOLYARENKO (ISU マスタープログラム主任)、Prof. Alain BERETZ (ストラスブール大学学長)、Mr. Gary MARTIN (NASA Ames 研究所)、鈴木秀人 (ISU 教授、JAXA より出向)、軽部洋 (在ストラスブール日本国総領事)、孫継文 (中華人民共和国駐ストラスブール総領事)、Wolfgang Lukas STROHMAYER (オーストリア総領事)、Ms. Heather GORDON (Cains) らと面談しました。



ISU 卒業式の様子。



ISU 卒業式・入学式後の歓送迎会の様子。

9月2日／ Dr. Gilles BLOCK (INSERM、アルザス・ブルゴーニュ・シャンパーニュ・アルデーヌ・フランシュコンテ・ロレーヌ支部長) が来所され、JSPS の事業説明を行うとともに、INSERM と JSPS の共同研究プログラム及び研究者交流事業について意見交換を行いました。



Dr. Gilles BLOCK (左から2人目)、中谷センター長 (左端)、Prof. Marie-Claire LETT 日仏学会館長 (右から2人目)。

9月7日／ 中谷センター長が在ストラスブール日本国総領事館を訪問し、軽部洋総領事と 2011 年度 JSPS フォーラム (Chemistry of Functional Organic Chemicals : 創造機能化学) についての打合せを行いました。

9月13日／ 畑江敬子 (和洋女子大学教授、内閣府食品安全委員会委員) が来所され、中谷センター長及び Prof. Marie-Claire LETT 日仏学会館長と食品科学分野における日仏学術交流について、意見交換をされました。



畑江敬子教授 (右から2人目)。

9月14日／ Prof. Hélène BAUMERT (ストラスブールアカデミー視学官) が来所され、中谷センター長と日仏の栄養士養成について、意見交換をされました。



Prof. Hélène BAUMERT

- 
- 2008年10月より2年にわたり当センターに勤務しておりました木戸場大輔副センター長が9月末にて離任し、京都大学に帰任します。フランスでの日仏学術交流推進活動の経験を活かして、京都大学の国際交流の発展に寄与されることを期待しています。後任には、多田智子氏 (日本学術振興会) が新たな副センター長として着任いたします。
- 

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター／JSPS Strasbourg Office

42a, avenue de la Forêt-Noire 67000 Strasbourg, FRANCE

Tel : +33 (0)3 68 85 20 17 / Fax : +33(0)3 68 85 20 14

HP : <http://jsps.u-strasbg.fr/>

---